

ひかり

2025年10月号

第737号



All Saints

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこに、ザアカイと言う人がいた。…イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」(ルカ 19:1~2、9~10)

自分の寿命はいつも今日

司祭シモン・ペテロ 上田憲明

人がいつ死ぬかというのは、正確に計算し得るのだろうか。お医者さんに、後一ヶ月の余命と言われた人が、そのXデーが近づいて、誰も助けてあげられないほどのスピリチュアル・ペインの中で苦しみながら、亡くなられたりするのを見ると、たとえ予想が当たっていたとしても、そういう具体的な月日を余命として告げる必要があったのだろうかと思う。その一方で、病状の経過の重大さを教えてもらわず、誰が見ても、後、何ヶ月も生きられないだろうと思う人が、何年も先まで生きることが前提に話しておられた、というような話を聞くと、非常なさびしさを感じる。

元気な時は自分が死ぬのは、いつかという遠いかなたの時だと、ぼんやりと思っているにすぎない。それもまた幻で、現実

は、生きている者は必ずある日に死んでしまう。それは思っている通り、遠い先かもしれないし、明日かもしれないのである。病気になる、特に重い病気になると、余命という話が出てくる。余命というのはいったい何であろうか？

「余命は後、〇カ月と言われたので、もうそろそろ寿命なんです。」とさびしそうに、あるいは怒りながら話されるような方と会う度に、「それはあくまで予想、予測、または統計上の話であって、寿命ではない。」と思ってしまう。もしも今か今かと死ねる時を楽しみにしている人がいるなら、ひよつとしたら、それは寿命と言えるのかもしれない。でも、そもそも寿命というのはカウントダウンするものではなく、カウント・アップしていくものであるのではないか、とも思う。

生まれてから今まで、ずっと私たちは一日、一日を昨日から今日へと数えてきている。昨日がなければ、今日はなく、今日がなければ、明日はない。理論上は、ともかくとして、現実の世界では、個人の寿命は今日があつてはじめて存在するのである。私にとって、寿命という考え方は今日という一日がどんなに大切な一日であるかということを告げてくれる考え方だと思う。過去は過ぎ去ってしまつて、もう変えられない。明日は予想もしなかったことが起こるかもしれない。自分に与えられているのは、いつも今日という日だけ。毎日、今日という日が寿命として与えられているのではないだろうか。今日一日も命を寿(ことほ)ぐような日でありますように。

10月・12月の予定

◆10月
19日(日) 聖霊降臨後第19主日
26日(日) 聖霊降臨後第20主日
28日(火) 使徒聖シモン・使徒聖ユダ日

◆11月
1日(土) 諸聖徒日
2日(日) 聖霊降臨後第21主日
3日(月) 逝去者記念礼拝
9日(日) 聖霊降臨後第22主日
10日(月) 主教教会博士レオ
11日(火) 主教マルチン
16日(日) 聖霊降臨後第23主日
17日(月) 修院長ヒルダ
22日(土) 殉教者おとめセシリヤ
日本聖公会東京教区第147(定期)
教区会
23日(日) 降臨節前主日
30日(日) 降臨節第1主日

◆12月
1日(月) 使徒聖アンデレ日
逝去者記念礼拝
2日(火) 日本聖公会初代主教ウイリアムズ
3日(水) アジアの殉教者とフランシスコ・ザビエル
5日(金) 司祭教会博士アレキサンドリアのクレメンツ
6日(土) 主教ニコラス
7日(日) 降臨節第2主日

北関東教区・東京教区
合同礼拝と新教区設立
MEETINGに参加して

9月15日立教大学タッカーホールで、数年来待望されていた合同礼拝(聖餐式)が、両教区の聖職と会衆500人近くが集まり、高橋宏幸主教司式、西原廉太主教の説教によってささげられた。

その後、同じ場で第2回新教区設立MEETINGがもたれた。7月19日の第1回ミーティングで出た50余りの質問や意見に、小委員会(宣教、教務、財務)などの担当者がある形であった。個別の質問はかなり細かいものが多く、それに全部答えることは時間がかかり、又それだけで終わってしまつたため、こうしたことについては文書で答え、もっと実質的な話し合いができれば良かったと思うが、それは次回(11月8日)になされるようである。

中でいくつか私が重要と思ったことを記したい。①教会、学校などが担うことをサポートする役割として、宣教センターを設立する
②両教区の聖職者給与格差(2割)

縮小のため、秋にまず、北関東教区の給与を1割引き上げる③収益事業・土地の有効活用による運営安定化を考えていく④主教座は東京の聖アンデレ教会に置き、本部を現在の東京教区事務所に置く⑤新教区の名称は「東日本教区」とすることを提案する⑥教会統廃合の予定はない⑦これからも相互の理解、学び、情報共有をより活発化する。

今後は、11月に行われる両教区会決議により新教区設立が承認されれば、来年3月までは旧教区、4月から新教区となり、2027年から統一予算を組むようになる。新教区設立の時には、より多くの祈りと賜物を得て、個々の教会、信徒の働きが、つながりあって豊かで実りあるものとなることを願う。
(安次嶺佳子)

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

- 主日礼拝
午前 7:30 聖餐式
午前 10:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝
- 平日礼拝
毎朝 6:30 から
月、水、金は朝の礼拝、
火、木、土は聖餐式